

## 特集：11月1日 市民公開講座報告



松尾管理者による開催挨拶

令和7年11月1日、大村市中地区公民館にて市民公開講座を開催し、定員100名の会場は満席となりました。一般市民の皆さまに加え、医療・行政関係者にも多数ご参加いただき、大変盛況な会となりました。開会にあたり、園田大村市長より地域医療の発展に向けた期待と、市民と医療をつなぐ取り組みの重要性についてあたたかいご挨拶をいただきました。

当日の講演内容を、次のとおりご報告いたします。



園田大村市長 ご挨拶

### ■ 演題1 知っておきたい！認知症の理解と予防のヒント

中澤先生は、認知症の原因や症状をわかりやすく解説し、早期発見と日常生活での予防の重要性を伝えました。講演では、「お寿司屋さんに行って何を食べたか忘れるのは加齢、行ったこと自体を忘れるのが認知症」という例えを用いて、物忘れとの違いを誰にでも理解できる形で説明しました。認知症は特別な病気ではなく、支援があればその人らしい生活を続けられると強調し、誤解や偏見をなくすことの大切さも語りました。

また、生活習慣の改善や社会参加による予防の可能性にも触れ、「早めに気づき、できることから始めることが重要」と呼びかけました。

参加者からは「認知症に対する考え方が変わった」「予防の工夫を実践したい」という声が寄せられ、理解を深める講演となりました。



講師：中澤 太郎 先生  
中澤病院 診療部長  
九州大学病院 精神科神経科 特別教員

### ■ 演題2 シンポジウム「認知症とお金の管理」



座長：市立大村市民病院 認知症看護認定看護師 河野 裕見子  
登壇：中澤太郎先生、野中病院長、医療相談員（林田・北御門）

このシンポジウムでは、認知症によって生じるお金の管理の難しさをテーマに、それぞれの立場から意見を交わしました。判断力の低下による支払い忘れや詐欺被害などの課題を紹介し、日常の工夫や制度の活用で安心を守る方法を紹介しました。成年後見制度や信託制度の仕組みを説明し、事前に理解し備えておく事の大切さを呼びかけました。また、地域全体で支える仕組みづくりの必要性にも触れ、フロアにおられた金融機関職員の方からの事例紹介もありました。参加者からは「困る前に備えるという考え方が印象的だった」「家族で話し合うきっかけになった」という声が多く寄せられました。



## ■ 演題3 映像と病院をつなぐ新しいカタチ～映像で見守る医療～

田村先生は、救急現場から患者の映像を病院へ送る「映像伝送システム（ビジュアルトーク）」の活用について紹介しました。このシステムを用いることで、医師は患者が到着する前に状態を把握でき、治療の準備や受け入れ判断をより迅速かつ正確に行うことが可能になります。従来は口頭で伝えられていた情報も、映像を通じて患者の表情や呼吸、体の動きをリアルタイムで確認できるため、初動対応の精度が大きく向上しました。

「百聞は一見にしかず」を引用し、視覚情報の持つ力の重要性を強調しました。実際に、緊急搬送時に医師が映像を見ながら処置の準備を行うことで、病院到着後の対応時間を短縮できた具体的な事例も示されました。

さらに田村先生は、現在の映像伝送は電話での情報伝達を映像化した段階にあるが、将来的には映像をAIが解析して医師の意思決定を支援し、安全で効率的な医療の実現につながると述べました。



講師：田村 智 先生  
北里大学メディカルセンター  
救急科・脳神経外科 副部長  
北里大学医学部 救命救急医学 助教



野中病院長からも当院での「映像伝送システム」の活用事例が紹介されました。

また、野中病院長からは当院での具体的な活用事例が紹介されました。救急隊との連携はもちろん、訪問診療や訪問看護のサポートとしての利用、さらにはクリニックや施設から大村市民病院への「お迎え搬送」にも映像を活用していることを説明しました。

実際に、救急車内から送られた映像や、当直医と自宅にいる専門医がCT画像を共有して相談する場面など、現場での映像活用の実例を紹介する映像も上映されました。

参加者からは「映像でここまでできるとは驚いた」「医療が確実に進化していることを実感した」との声が多く寄せられました。講演を通じて、地域全体で患者さんを見守る仕組みが着実に広がっていることが伝わりました。「大村の医療が進んでいて心強い」「安心して暮らせるまちだと改めて感じた」といった感想も多く、市民にとって医療をより身近に感じる機会となりました。映像という新しい技術が、救急医療のみならず地域の医療連携を支える大きな力になっていることを実感できる講演となり、地域医療への信頼と期待がさらに高まりました。

## ■ おわりに

講演後のアンケートでは、「とても満足」「満足」と回答した方が全体の92%を占め、非常に高い評価をいただきました。参加者からは「このような講座を今後も続けてほしい」

「大村市の医療が頼もしく感じた」との感想が多く寄せられました。市立大村市民病院では、地域の皆さまとともに学び、支え合う取り組みを今後も進めてまいります。